

「腫瘍マーカー臨床マニュアル」

大倉 久直・石井 勝・高橋 豊
有吉 寛・加藤 紘・長村 義之
栗山 学
伊藤 仁・永井 利正
著
執筆協力

東京都済生会中央病院・院長

末 舩 恵 一

国立がんセンター時代を長くとも
に過ごした畏友、大倉久直博士を筆
頭者に、腫瘍マーカーの研究のはし
りのころからこの問題に取り組んで
こられた研究者七人の侍による、「腫
瘍マーカー臨床マニュアル」が世に
出た。大倉氏のほか、石井勝、高橋
豊、有吉寛、加藤紘、長村義之、栗
山学の諸氏の頭脳と経験によるもの
である。加えて、執筆協力者として、
伊藤仁、永井利正の両氏が加わって
完成した。

序文は大倉博士によるが、「臨床
医と研修医を対象に、腫瘍マーカー
の使い方のエッセンスをマニュアル
としてまとめた」と自負をもって世
に出した気概がにじみ出ている。

構成は次のごとくである。すなわ
ち、まず大きく2つの総論と、2つ
の各論に分かれる。末尾には「腫瘍
マーカーの基準値と異常値を示す疾
患」「主な臓器癌での腫瘍マーカーの
病期別陽性率」「臓器別・目的別の腫
瘍マーカーの組み合わせ」「腫瘍マ
ーカー測定用キット一覧」という、臨
床に利便性の大きい4つの付表がま
とめてある。

総論1は「腫瘍マーカーとは」であ

る。内容はその意義、歴史、測定原
理、精度管理、カットオフ値とグレ
イゾーン、検体取り扱いについて、
であり腫瘍マーカーの臨床上の概念
が上手にまとめられている。

総論2は「臨床検査としての腫瘍
マーカーの使いかた」で、21の項
目に分けて述べられる。その目的、
類似の抗原が多くある中で、その選
択、組み合わせ、早期癌と腫瘍マ
ーカー、手術や化学療法などの治療時
の使用目的などが要領よく記され
る。更に、加齢、喫煙の影響も取り
上げられ、特に保険診療での制約は
臨床医にとって見逃せない。

そして2つの各論がある。1つは
「臓器別腫瘍マーカーの使いかた」
10項目である。もう1つはCEA、
AFPなどの主な腫瘍マーカー22種
類について、その臓器癌特異性、病
期、治療効果との相関などを項目立
てして解説している。

そして前述のように、利便性の高
い付表をもって完結している。

本書は臨床医にとって、必要な多
種多数の腫瘍マーカーを取り上げ、
起源、特異性、測定法、その精度、
生体内での代謝、消長について、更

には血液、体液、分泌物、排泄物、
体腔液、ホルモン、遺伝子関連蛋白
についても簡潔に明示している。そ
して、腫瘍に必ずしも特異的でない
感染症、諸臓器の血流障害、免疫反
応、更には放射線被爆などとともに
変動する物質などのいわゆる非特異
的マーカーについても、忘れられて
いない。

総論2の末尾の項目に、遺伝子異
常と腫瘍マーカー、そしてこれから
の腫瘍マーカーの方向についてふれ
られている。血中の腫瘍関連遺伝子
のPCRを用いた遺伝子増幅による
検出の試みが現実性を増し、これは
例えば早期癌の検出に有望である。
また、p53やc-mycに対する自己抗
体の追求も進められているという。

書評の結語として、本体はもちろん、
動態、測定などについて、その
輪郭のかなり不明瞭な所であった腫
瘍マーカーが、本書の出現によって
臨床医の手掌に乗ったことを強調し
たいと思う。

● B5 頁198 図40 写真1
カラー写真14 表91 1999
定価(本体6,000円+税) 7400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)